

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0114210818		
法人名	医療法人 樹恵会		
事業所名	石田病院指定認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームいこいの樹 はるにれ		
所在地	北海道標津郡中標津町西8条北6丁目2番地5		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の状態は様々ですが、互いの存在を認め合いそれぞれのペースで共同生活を営まれています。関わりの中から思いを汲みとり、ゆったりとした支援ができるよう心掛けています。高齢の方も多く活動には限りがありますが、できるだけ楽しい時間を過ごしていただけるよう考えています。近隣には保育所もあり、散歩途中の子供たちが手を振っていくのを楽しみにしている方もいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0114210818-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0114210818-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年3月8日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**＜法人機能を活かした取り組み＞**  
居宅介護支援、訪問介護、訪問看護、デイケア、訪問リハビリを運営している医療法人を中心に、全体のケアの質の向上に取り組み、法人全体で職員への勉強会や研修会、地域に向けた「健康教室」を定期的に開催する等、地域の医療と福祉に中心的な役割を担っています。また、また、月2回の法人の医師の訪問で健康管理を行い、医療面でも安心してグループホームで過ごせるよう支援しています。

**＜楽しみごとへの支援＞**  
日常的に散歩や買い物等、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援しています。また、尾岱沼のエビ祭りやサーモンパーク、開陽台等、普段は行けないような場所への外出支援や回転寿司等の外食する機会も作っています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、毎月の会議でスタッフで読み上げて共有をしていますが、時々実践できていないと感じることもあります。これからも、理念に沿った支援を心掛けていきたいと思えます。	理念はホーム内の掲示版に掲示しており、管理者は会議や申し送りで理念に添ったケアが実践されているかを振り返る機会を作り、職員はその理念を共有して実践につなげるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、清掃活動に参加をしたり、散歩の際にゴミを拾うなどしています。今後、更に交流機会を増やせるようにしていきたいと思えます。	町内会に加入し、地域の清掃活動などの地域活動に積極的に参加している。また、地域の幼稚園のお遊戯会見学や来訪、日常の散歩での挨拶で地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員等の視察をお受けし、認知症についてのお話をさせていただいたり、支援を必要とする人をどうやって関係機関に繋げていくか等周囲の見守りや協力の必要性をお伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動や取り組みについて報告し御家族や町内会からいただいた意見を検討をしたり、町の担当者から助言をいただくなどしてサービス向上に努めています。	運営推進会議は年6回実施し、利用者家族、町内会長、包括支援センター職員、町の職員及び管理者・職員で構成され、避難訓練や事業所の取り組みについて意見交換してサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、必要に応じて連絡をして相談させていただいています。	町担当者や包括支援センターとは運営推進会議や日常業務を通じて交流を図り、事業所内の実情を理解して貰い、気軽に相談や情報交換できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に拘束廃止委員会を開き、検討しています。また、身体拘束に関しての勉強会を行ったり、研修に参加をして理解に努めています。緊急時以外は拘束をせずに利用者に寄り添いながら対応をするよう努めています。防犯の観点から、18時から翌9時までは外の玄関を施錠させていただいています。	管理者及び職員は外部研修や法人内研修を通じて、身体拘束をしないケアの理解や認識の共有が行われている。また、玄関は夜間の防犯目的以外の施錠は行っておらず、身体拘束や不適切なケアにならないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加して学ぶ機会を設けている。また、スタッフ全員で入居者様にあざ・変色等がないか注意をしたり、言葉遣いや対応を確認し合うなどしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の数名は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでおり、実際に制度を活用された利用者様もいます。今後も研修会等に参加するなどして必要時の制度活用に備えていきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にはできるだけご家族のご意見・ご要望をお聞きするようにしています。また、入居者様のご要望も普段の会話の中から汲みとる事ができるよう努めています。	毎月の利用料支払い等の家族の来訪時には、意見や要望、不満を言いやすいような雰囲気作りを心掛け、意見、要望があれば各ユニットでよく話し合い、改善に向けて取り組んでいる。また、結果は速やかに報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、または、日常の中で職員個々に声掛けをし意見や提案を聞く様にしています。話しやすい環境を作るよう努め、出た意見は会議等にて検討し運営に反映させています。	毎月の職員会議や日常業務を通じて、意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、年1回以上個別に面談する機会を設け、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務表にはできるだけ個々の勤務の希望を取り入れられるようにするなど労働環境の整備に努め、給与や手当等も必要に応じて見直しを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は毎月行っており、参加を促しています。また、各種研修の案内や研修計画による個々の経験に合わせた研修機会の確保により、職員のスキルアップが図れるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会に加盟しており、情報交換・交流に努めています。今後、さらに交流が深められたら良いと思ひます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やケアマネージャーなどから情報をいただくと共に、特に入居後数日は利用者様と接する機会を多く持ち、できるだけ早く安心して過ごしていただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や契約の際などには、ゆっくりと時間をとり、ご家族とお話しをさせていただくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から頂いた情報をもとに、利用者様・ご家族から伺ったお話の中で、必要な支援を検討するようにしています。また、必要時には法人の相談員とも連携を取り、対応させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれの特性や興味を把握し、家事活動や畑作業などできる事・関心のある事への参加の声掛けをし、活動を見守り必要な支援ができるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等には、ご家族に普段の生活状況などを伝え必要に応じて支援の検討をしています。また、自室でゆっくりお話しをすることでお互いの思いが共有できるような環境に配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、いつでも知人や友人が訪ねてこられるようにしています。また、馴染みのある場所にも出かけて行けるよう努めています。	馴染みの人や場所を忘れる事がないよう馴染みのお店や理美容院を利用している。また、知人や友人との関係が途切れないよう来訪しやすい雰囲気作りを心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの入居者様の表情や会話の内容に注意し、関係性が悪くなりそうな時には職員が間に入りお手伝いさせていただくよう努めています。また、共同作業やレクリエーション等で交流機会を増やせるよう配慮しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談をお受けしたり、必要に応じたお手伝いができるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中でふと職員本意になりがちな時があります。普段の会話の中から、または表情・行動を注意深く観察し、利用者様の思いを汲みとり、支援に繋げるようにしていきたいと思えます。	センター方式やMDSのシートを活用して、家族や本人の意向や希望を把握し、普段の会話や表情の中から本人の思いを聴取し、職員間で情報の共有が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やMDSシートを活用し、利用者様やご家族、ケアマネージャーなどから得た情報をまとめてスタッフ間で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を活用して、スタッフ間で情報の共有が図れるようにしています。また、定期的なモニタリングを行う事でも、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングで現状と課題を明確にし、利用者様・ご家族の意向を踏まえ支援を検討し、個々の介護計画を作成しています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式やMDSのアセスメントシートを活用して本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を行い、内容をケース記録に記入し、スタッフ間で情報の共有に努めています。定期的に、また状態やニーズの変化など必要時には介護計画の見直しも行っていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診や各種手続きも利用者様・ご家族より依頼があれば対応するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や幼稚園の訪問など楽しみが持てるように努めています。また、買い物や外食などにも出かけられるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関と常に連携しており、支援もある。ご家族からの要望があれば専門医等の受診も支援しています。	母体の医療法人の医師が月2回、往診されており、受診はすべて事業所に対応している。利用者、家族の要望があれば専門医等の受診にも柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は准看護師の資格を有しており、法人の医療機関と連携を取り、受診や処置が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、法人の医療機関の相談員とも連携が図られています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うには、制度や法律上限界があるように感じられますが、その中でどのように支援できるかを入居者様やご家族と話し合う機会を持ち、理解を得ていきたいと考えています。現在は医療機関の支援を受け対応しています。	本人や家族の意向を踏まえ、事業所ができることを家族に十分説明しながら母体法人の医療機関と連携し利用者・家族とも早い段階から話し合い、指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で行っている普通救命講習を全職員が定期的に受講しています。また、急変や事故発生時の対応もマニュアル等にて周知しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災時の訓練は定期的に行い、また、ホーム独自の災害時連絡網の作成や、緊急通報システムの設置も行っており、その中には町内会長様も含まれています。その他、非常食の確保にも努めています。	緊急時に職員全員が速やかに対応できるよう、年2回、消防署の協力を得ながら夜間や日中を想定した実技を伴う避難訓練を実施している。また、設備の定期点検や緊急時マニュアル、非常招集連絡網も整備している。	今後は地域の方の避難訓練への参加を増やし、連携して地域との協力体制を築けるよう取り組みを検討しているので、その実践に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについては親しみと混同しやすいことを念頭に置き、スタッフ間で注意し合うようにしています。また、日常の中でも個人の尊厳を大切に与え支援していきたいと考えています。	職員はプライバシー確保の徹底を図り、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛けている。また、個人情報には十分に注意して取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しい事ですが、その方に合った分かりやすい方法で、自己決定しやすいアプローチができるよう、スタッフ間で言葉かけやコミュニケーションの取り方を工夫し、共有したいと思っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりや都合が優先されている時も見受けられますが日課活動や入浴など、「いつ」「何を」するのかを利用者様それぞれに声掛け・確認し、可能な限りご希望に添えるよう努めたいと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と相談しながらその日の洋服を選んだり、髪を結ったりするお手伝いをしています。毎月理容師さんに訪問のお願いをし、また、美容室や洋服の買物などにも出かけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者様の状態や体調に合わせて、職員と一緒に調理や配膳、食事、片づけをしていただいています。誕生日にはその方のリクエストにお応えするなど楽しい食卓を心掛けています。	利用者と一緒に準備、食事、片付けを行っており、献立は利用者の好みや希望をメニューに反映させている。また、一人ひとりの体調に合わせて調理方法を工夫しており、回転ずし等の外食の機会も作り、食事が楽しみごとになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態、病状に合わせて主治医と相談しながら栄養バランスに注意して調理しています。また、必要に応じて刻みやトロミ、食器の工夫等をするなど、お好みの飲み物を用意するなどして、摂取量をチェックしながらおすすめています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをし、必要に応じて仕上げ磨き等の支援をしますが、中にはさせていただけない方もいます。口腔内のトラブルが見られた際は、迅速に対応するように努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常の関わりの中でそれぞれの排泄パターンや排泄動作を把握し、自立に向け、できるだけ失敗なく、低刺激・低コストで済むように排泄用品を検討し、利用者様やご家族と相談しながら支援しています。	水分、排泄のチェック表の活用から排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるように支援している。また、排泄用品はできるだけ失敗なく、低刺激・低コストで済むように相談しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分摂取など便秘に対しての対応を心掛け、日々ケアを行うように努めています。また、排便チェックにより便秘の状態を把握し、主治医の指示のもと、必要に応じた支援をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間浴も行っており、入居者の希望に沿った曜日や時間帯に入浴できるよう努めています。また、全員のご希望通りというわけにはいかないのが現状です。今後も努力していきたいと思っております。	一人ひとりの夜間浴等の時間帯や回数の希望やタイミング、生活習慣に応じて、入浴出来るよう支援している。また、入浴を好まない利用者についても本人の意向を確認しながら無理強いしないように週2回は入れるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運度の促しや環境の整備により、休息や安眠ができるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬一覧表で、服薬内容を把握しており、症状の変化がみられる際には、医師・看護師に相談しています。また、服薬時には飲み間違いのないよう注意し、飲み込むまで確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の関わりの中で、得意な事・これまでやってきた事・好きな事などを把握し、役割や楽しみごとができるよう心掛けています。気分転換に好きな事をしていただく時間ができるよう考えています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の全ての訴えや希望に対応できている訳ではないが、可能な限り本人の意思や希望に沿えるよう努めています。	日常的に散歩や買い物等、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。また、尾岱沼のエビ祭りやサーモンパーク、開陽台等、普段は行けないような場所への外出支援や回転寿司等の外食する機会も作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病状にもよるが、希望や訴えがある入居者様に対しては、ご家族とも相談し、考えられる危険性等を説明した上で支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には電話を掛けたり、手紙を出すお手伝いをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部は木目と白を基調とした優しい雰囲気になっており、中庭から自然な風と光が入ります。空調にも注意し、暖房も環境に配慮したのものになっています。	共用部分には花を飾ったり、壁には利用者が描いた絵画や町の文化祭に展示した作品、日常生活や行事の際の写真等を掲示して居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間と食堂が別々になっており、思い思いに過ごせるような空間になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、出来るだけ使い慣れた物を持ってきていただくように説明をして、安心して居心地よくお過ごしいただけるよう配慮しています。	居室の入り口には、職員手作りの表札が掲げられ、居室内は、本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋やトイレなどの目印や家具の配置など、利用者様の状態変化に合わせて検討し、できるだけ困りごとなく日常生活が営めるよう配慮しています。		



### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0114210818		
法人名	医療法人 樹恵会		
事業所名	石田病院指定認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームいこいの樹 しらかば		
所在地	北海道標津郡中標津町西8条北6丁目2番地5		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活活動を中心に、個人個人自分の役割に責任を持ち、職員と一緒に自らの意思で活動する事ができています。また、本人が好むアクティビティーを追求し、時間調整をしたり毎日の生活の中に取り入れることで、声掛けなくある程度の活動がそれぞれの意思・判断でなされており、共同生活の中で助け合い思いあう姿が見えます。職員も明るく、笑い声がよく聞こえます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0114210818-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0114210818-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年3月8日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、毎月の会議でスタッフで読み上げて共有をしていますが、時々実践できていないと感じることもあります。これからも、理念に沿った支援を心掛けていきたいと思っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、清掃活動に参加をしたり、散歩の際にゴミを拾うなどしています。今後、更に交流機会が増やせるようにしていきたいと思っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員等の視察をお受けし、認知症についてのお話をさせていただいたり、支援を必要とする人をどうやって関係機関に繋げていくか等周囲の見守りや協力の必要性をお伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動や取り組みについて報告し御家族や町内会からいただいた意見を検討をしたり、町の担当者から助言をいただくなどしてサービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加をして頂いたり、必要に応じて連絡をして相談させていただいています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に拘束廃止委員会を開き、検討しています。また、身体拘束に関する勉強会を行ったり、研修に参加をして理解に努めています。緊急時以外は拘束をせずに利用者に寄り添いながら対応をするよう努めています。防犯の観点から、18時から翌9時まででは外の玄関を施錠させていただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加をして学ぶ機会を設けている。また、スタッフ全員で入居者様にあざ・変色等がないか注意をしたり、言葉遣いや対応を確認し合うなどしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の数名は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでおり、実際に制度を活用された利用者様もいます。今後も研修会等に参加するなどして必要時の制度活用に備えていきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にはできるだけご家族のご意見・ご要望をお聞きするようにしています。また、入居者様のご要望も普段の会話の中から汲みとる事ができるよう努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、または、日常の中で職員個々に声掛けをし意見や提案を聞く様にしています。話しやすい環境を作るよう努め、出た意見は会議等にて検討し運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務表にはできるだけ個々の勤務の希望を取り入れられるようにするなど労働環境の整備に努め、給与や手当等も必要に応じて見直しを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は毎月行っており、参加を促しています。また、各種研修の案内や研修計画による個々の経験に合わせた研修機会の確保により、職員のスキルアップが図れるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会に加盟しており、情報交換・交流に努めています。今後、さらに交流が深められたら良いと思えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やケアマネージャーなどから情報をいただくと共に、特に入居後数日は利用者様と接する機会を多く持ち、できるだけ早く安心してお過ごしいただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や契約の際などには、ゆっくりと時間をとり、ご家族とお話しをさせていただくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から頂いた情報をもとに、利用者様・ご家族から伺ったお話の中で、必要な支援を検討するようにしています。また、必要時には法人の相談員とも連携を取り、対応させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれの特性や興味を把握し、家事活動や畑作業などできる事・関心のある事への参加の声掛けをし、活動を見守り必要な支援ができるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等には、ご家族に普段の生活状況などを伝え必要に応じて支援の検討をしています。また、自室でゆっくりお話しをすることでお互いの思いが共有できるよう環境に配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、いつでも知人や友人が訪ねてこられるようにしています。また、馴染みのある場所にも出かけて行けるよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの入居者様の表情や会話の内容に注意し、関係性が悪くなりそうな時には職員が間に入りお手伝いさせていただくよう努めています。また、共同作業やレクリエーション等で交流機会が増やせるよう配慮しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談をお受けしたり、必要に応じたお手伝いができるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中でふと職員本意になりがちな時があります。普段の会話の中から、または表情・行動を注意深く観察し、利用者様の思いを汲みとり、支援に繋げるようにしていきたいと思えます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やMDSシートを活用し、利用者様やご家族、ケアマネージャーなどから得た情報をまとめてスタッフ間で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を活用して、スタッフ間で情報の共有が図れるようにしています。また、定期的なモニタリングを行う事でも、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングで現状と課題を明確にし、利用者様・ご家族の意向を踏まえ支援を検討し、個々の介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を行い、内容をケース記録に記入し、スタッフ間で情報の共有に努めています。定期的に、また状態やニーズの変化など必要時には介護計画の見直しも行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診や各種手続きも利用者様・ご家族より依頼があれば対応するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や幼稚園の訪問など楽しみが持てるように努めています。また、買い物や外食などにも出かけられるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関と常に連携をしており、支援もある。ご家族からの要望があれば専門医等の受診も支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は准看護師の資格を有しており、法人の医療機関と連携を取り、受診や処置が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、法人の医療機関の相談員とも連携が図れています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うには、制度や法律上限界があるように感じられますが、その中でどのように支援できるかを入居者様やご家族と話し合う機会を持ち、理解を得ていきたいと考えています。現在は医療機関の支援を受け対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で行っている普通救命講習を全職員が定期的に通っています。また、急変や事故発生時の対応もマニュアル等にて周知しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災時の訓練は定期的に行い、また、ホーム独自の災害時連絡網の作成や、緊急通報システムの設置も行っており、その中には町内会長様も含まれています。その他、非常食の確保にも努めています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについては親しみと混同しやすいことを念頭に置き、スタッフ間で注意し合うようにしています。また、日常の中でも個人の尊厳を大切に与え支援していきたいと考えています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しい事ですが、その方に合った分かりやすい方法で、自己決定しやすいアプローチができるよう、スタッフ間で言葉かけやコミュニケーションの取り方を工夫し、共有したいと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりや都合が優先されている時も見受けられますが日課活動や入浴など、「いつ」「何を」するのかを利用者様それぞれに声掛け・確認し、可能な限りご希望に添えるよう努めたいと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と相談しながらその日の洋服を選んだり、髪を結ったりするお手伝いをしています。毎月理容師さんに訪問のお願いをし、また、美容室や洋服の買物などにも出かけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者様の状態や体調に合わせて、職員と一緒に調理や配膳、食事、片づけをしていただいています。誕生日にはその方のリクエストにお応えするなど楽しい食卓を心掛けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態、病状に合わせて主治医と相談しながら栄養バランスに注意して調理しています。また、必要に応じて刻みやトロミ、食器の工夫等をするともに、お好みの飲み物を用意するなどして、摂取量をチェックしながらおすすめています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをし、必要に応じて仕上げ磨き等の支援をしますが、中にはさせていただけない方もいます。口腔内のトラブルが見られた際は、迅速に対応するように努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常の関わりの中でそれぞれの排泄パターンや排泄動作を把握し、自立に向け、できるだけ失敗なく、低刺激・低コストで済むように排泄用品を検討し、利用者様やご家族と相談しながら支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分摂取など便秘に対する対応を心掛け、日々ケアを行うように努めています。また、排便チェックにより便秘の状態を把握し、主治医の指示のもと、必要に応じた支援をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間浴も行っており、入居者の希望に沿った曜日や時間帯に入浴できるよう努めています。全員のご希望通りというわけにはいかないのが現状です。今後も努力していきたいと思っております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運度の促しや環境の整備により、休息や安眠ができるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬一覧表で、服薬内容を把握しており、症状の変化がみられる際には、医師・看護師に相談しています。また、服薬時には飲み間違いのないよう注意し、飲み込むまで確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の関わりの中で、得意な事・これまでやってきた事・好きな事などを把握し、役割や楽しみごとができるよう心掛けています。気分転換に好きな事をしていただく時間ができるよう考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の全ての訴えや希望に対応できている訳ではないが、可能な限り本人の意思や希望に沿えるよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病状にもよるが、希望や訴えがある入居者様に対しては、ご家族とも相談し、考えられる危険性等を説明した上で支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には電話を掛けたり、手紙を出すお手伝いをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部は木目と白を基調とした優しい雰囲気になっており、中庭から自然な風と光が入ります。空調にも注意し、暖房も環境に配慮したものになっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間と食堂が別々になっており、思い思いに過ごせるような空間になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、出来るだけ使い慣れた物を持ってきていただくように説明をして、安心して居心地よく過ごしいただけるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋やトイレなどの目印や家具の配置など、利用者様の状態変化に合わせて検討し、できるだけ困りごとなく日常生活が営めるよう配慮しています。		



### 目標達成計画

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	昨年6月に管理者が変わったこともあり、町内会との関わりは犬の散歩の際などにゴミを拾ったり、あいさつを交わす程度で、行事参加も殆ど出来ていない。	町内会の総会等に参加し、グループホームの紹介をさせていただき、地域における役割の検討や協力をお願いをし、関わるの機会を少しでも増やしたい。	年2回の避難訓練への近隣住民の参加のお願い。町内の清掃活動への一部入居者様の参加。グループホーム内行事への近隣住民のお誘い。等、運営推進会議等を通じて働きかけていく。	12ヵ月
2	49	入居者様の状態や職員体制の問題もあり、思っているような外出ができていない現状がある。	ユニット単位での外出には限りがあると思うが、小単位での外出機会を増やしていきたい。	買物支援や散歩、ゆかりの地など希望する場所への外出支援を職員・管理者の連携により増やしていく。	12ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。